

(雑 録) 2003年4月—2004年8月まで

I. 学会誌等発表論文

1. 中村義治・深町孝子・真崎邦彦・関根幹男・三村信男 (2003): 有明海湾奥部のサルボウガイ漁場における炭素固定量の評価. 海岸工学論文集, 50, 111-115.
2. 森川晃・伊藤史郎・山口忠則・金澤孝弘・内川純一・皆川恵・北田修一 (2003): 有明海におけるクルマエビの放流効果. 栽培技研, 30(2), 61-73.
3. 伊藤史郎・江口泰蔵 (2004): ウミタケ浮遊幼生の飼育と着底・変態. *The Sessile Organisms Society of Japan*, 21 (1), 13-18.
4. 渡辺康憲・川村嘉応・半田亮司 (2004): ノリ養殖と栄養塩ダイナミクス. 沿岸海洋研究, 42(1), 47-54.

II. 各種雑誌等, 書籍

1. 伊藤史郎 (2003): 有明海の珍珠「うみたけ」. 漁港, 22-23.
2. 三根崇幸 (2003): 新種「ソコミジンコ」発見とノリ養殖への応用について. 水産統計情報.
3. 川村嘉応・久野勝利 (2003): 近年ノリ網に顕著に付着する丸葉ノリ. 海苔と海藻. (66), 1-6.
4. 川村嘉応 (2004): 新春を迎えて. 海苔タイムス, No.1761.
5. 川村嘉応 (2004): 有明海湾奥部におけるここ数年の栄養塩不足とノリ生産体制. 海苔と海藻. (67), 1-5.

III. 研究会シンポジウム報告書

1. 川村嘉応 (2003): 近年の生産動向・問題点—有明海—. *Nippon Suisan Gakkaishi*. 69 (39), 422-423.

IV. 調査報告書, 事業報告書

1. 横尾一成・荒巻裕・川村嘉応・村山孝行 (2000): DNA解析等によるアマノリ品種の識別技術の開発. 平成11年度地域先端技術共同研究開発促進事業報告書. 1-11.
2. 横尾一成・川原逸朗・川村嘉応・村山孝行 (2000): バイテクを利用したノリ病害発生子測技術の開発に関する研究. 平成11年度バイテク利用養殖システム高度化事業報告書. 1-9.
3. 横尾一成・荒巻裕・川村嘉応 (2001): DNA解析等

によるアマノリ品種の識別技術の開発. 平成12年度地域先端技術共同研究開発促進事業報告書. 1-14.

4. 横尾一成・荒巻裕・川村嘉応 (2001): バイテクを利用したノリ病害発生子測技術の開発に関する研究. 平成12年度バイテク利用養殖システム高度化事業報告書. 1-12.
5. 横尾一成・廣田健一郎・川村嘉応 (2002): DNA解析技術等を利用した病原菌の検出技術開発. 平成13年度先端技術等地域実用化研究促進事業報告書. 1-13.
6. 横尾一成・荒巻裕・川村嘉応 (2002): DNA解析等によるアマノリ品種の識別技術の開発. 平成13年度地域先端技術共同研究開発促進事業報告書. 1-17.
7. 横尾一成 (2003): 人工培養系確立によるアマノリ類の生長優良系統作出技術の開発. 水産生物育種の効率化基礎技術の開発 (水産生物育種). 養殖研究所 444-448.
8. 廣田健一郎・三根崇幸・川村嘉応 (2003): 平成14年度閉鎖性海域赤潮被害防止対策事業報告書.
9. 横尾一成・三根崇幸・川村嘉応 (2003): DNA解析技術等を利用した病原菌の検出技術開発. 平成14年度先端技術等地域実用化研究促進事業報告書. 1-16.
10. 横尾一成・三根崇幸・川村嘉応 (2004): DNA解析技術等を利用した病原菌の検出技術開発. 平成15年度先端技術等地域実用化研究促進事業報告書. 1-25.
11. 川原逸朗・大隈斉・森勇一郎・山口忠則・伊藤史郎・中島則久 (2004): 平成11年~14年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書 (有明地域). 1-46.
12. 久野勝利・三根崇幸・川村嘉応 (2004): 植物プランクトンがノリ生産量と品質に及ぼす影響の解明. 平成15年度行政対応特別研究報告書. 45-48.
13. 渡辺泰憲・輿石祐一・伊藤史郎・川原逸朗・他16名 (2004): 有明海における資源生物生産と環境に関する調査. 平成15年度漁場生産力変動評価・予測調査報告書.

V. 学会における口頭発表

1. 日本水産学会春季大会 (2003年4月, 東京水産大学) ・有明海における浅海定線調査結果からみた海洋環境

の経年変化。

横内克巳・清本容子・岡村和麿・半田亮司・川村嘉応・吉田雄一・山本憲一

・有明海の透明度の経年変化の解析。

渡辺康憲・藤吉栄次・坂本達也・内藤剛・熊谷香・川村嘉応・吉田雄一・渡辺康憲

・反復観測でとらえた有明海の貧酸素水塊の挙動。

木元克則・西内耕・横内克巳・清本容子・岡村和麿・田中勝久・半田亮司・熊谷香・川村嘉応・廣田健一郎・山本憲一・藤井明彦・西村大介・吉田雄一・黒木善之

・有明海の栄養塩現存量の季節変化と経年変化。

渡辺康憲・藤吉栄次・坂本達也・内藤剛・熊谷香・吉田賢二・渡辺康憲

・諫早湾から大牟田沖における海況把握のための共同調査－I－植物プランクトンを中心に－。

廣田健一郎・川村嘉応・内藤剛・熊谷香・吉田雄一・黒木善之・山本憲一・山砥稔文・木元克則・渡辺康憲・本城凡夫

・有明海における有害赤潮生物の出現環境特性。

大嶋雄治・金大一・長副聡・石澤進・松原賢・本城凡夫・山本憲一・藤井明彦・廣田健一郎・川村嘉応・内藤剛・熊谷香・吉田雄一・吉村直晃・木元克則・渡辺康憲

・*Fibrocapsa japonica*がノリ葉体に及ぼす影響。

久野勝利・三根崇幸・川村嘉応

・有明海のタイラギに寄生する糸虫幼虫の終宿主特定。

松山知正・釜石隆・大迫典久・堤信幸・良永知義・那須博史・平山泉・川原逸朗・伊藤史郎・松井繁明・筑紫康博

・二枚貝に寄生する糸虫幼虫に関する研究

松山知正・釜石隆・大迫典久・堤信幸・良永知義・川原逸朗・伊藤史郎・松井繁明・筑紫康博

・最近の有明海における二枚貝類大量死の病理－その予察的検討。

吉越一馬・真崎邦彦・大橋智志

・PCR-RFLPによる有明産及び韓国産アゲマキmDNAの比較。

常本和伸・長富潔・伊東史郎・大隈斉・原研治・石原忠

・有明海奥部浅海域における満潮・干潮時のプランクトンの分布。

上田拓史・豊原慶太・関大吾・川村嘉応・木下泉

・有明海湾奥部六角川河口域に形成される魚類成育場(予察)。

青山大輔・木下泉・川村嘉応・藤田真二・八杉公器基

2. 日本菌学会 (2003年5月, 北海道大学)

・養殖ノリ *Porphyra* spp. に寄生する壺状菌の再同定および18rRNA遺伝子を用いた分子系統解析

関本訓士・横尾一成・川村嘉応・本多大輔

3. 有機地球化学会 (2003年8月, 札幌大学)

・有明海ノリの養殖期間における $\delta^{15}N$ 及び $\delta^{16}N$ の変動

金倫碩・片瀬隆雄・上田真吾・高春心・川村嘉応

4. 日本魚類学会 (2003年10月, 京都大学)

・有明海におけるナルトビエイの出現パターン

山口敦子・川原逸朗・伊藤史郎

5. 日本植物病理学会 関西部会(2003年10月, 奈良市)

有明海の海底の泥から分離された *Pythium ologandrum* の同定と性状調査

菱池政志・東條元昭・川村嘉応・横尾一成・大木理

6. 水産海洋学会研究発表大会(2003年12月, 東北大学)

・有明海におけるニューラルネットワークを利用した赤潮予測手法について

為石日出生・堀義彦・本田清一郎・川村嘉応・本城凡夫・中田英昭

7. 第39回日本動物分類学会 (2003年5月, 京都大学)

・ノリのカキ殻糸状体を培養する水槽から得られた *Amphiascus* 属 (ソコムジシコ目・カイアシ類) の未記載種について

長井秀文・上田拓史・川村嘉応

8. 日本海洋学会秋季大会 (2003年9月, 長崎大学)

・有明海における貧酸素水塊の発生

渡辺康憲・山本憲一・藤井明彦・川村嘉応・半田亮司

9. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 (2003年11月, 東京海洋大学)

・有明海高濁度水域の動物プランクトン相

門出倫子・上田拓史・三根崇幸・川村嘉応

・有明海における浮遊珪藻類 *Rhizosolenia imbricata* について

板倉茂・長井敏・山口峰生・尾田成幸・淵上哲・廣田健一郎・川村嘉応

10. 日本藻類学会 (2004年3月, 北海道大学)

・*Porphyra* 寄生性卵菌 *Olpidiopsis* sp. にコードされ

るgroup I intronの転移過程の解明

関本訓士・横尾一成・川村嘉応・本多大輔

11. 日本水産学会春季大会 (2004年4月, 鹿児島大学)
 - ・タイラギ浮遊幼生の飼育と着底
川原逸朗・伊藤史郎・山口忠則・大隈斉
 - ・養殖ノリに被害を与える壺状菌のPCRによる早期検出
横尾一成・川村嘉応・関本訓・本多大輔
 - ・有明海における魚類成育場としての湾奥部六角川河口域の重要性
青山大輔・木下泉・川村嘉応・藤田真二
 - ・諫早湾本明川河口域における潮受堤防 (ギロチン) 締切前に出現した稚仔魚
木下泉・柴崎賀広・川村嘉応・山本一生・川端豊喜
 - ・諫早湾潮止め前後におけるヤマノカミの生育状況
碓井利明・東幹夫・青山大輔・木下泉・川村嘉応・藤田真二
12. 日本菌学会 (2004年5月, 長崎)
 - ・養殖ノリ *Porphyra* spp. に細胞内寄生する壺状菌の微細構造解析
関本訓士・横尾一成・川村嘉応・本多大輔
13. 日本進化学会 (2004年8月, 東京)
 - ・ *Olpidiopsis* sp. (クロミスタ界・卵菌綱) 核18SrRNA

遺伝子に見られるgroup I intronの二次構造及び分子系統解析

関本訓士・横尾一成・川村嘉応・本多大輔

VI. 研究会等における講演及び口頭発表

1. 海苔師の会 講習会 (2003年2月, 木更津市)
 - ・良質ノリ作りを目指して, 川村嘉応
2. 佐賀大学公開講座 (2003年8月)
 - ・有明海における水産増殖の現状と再生, 伊藤史郎
3. 有明海・八代海総合調査評価委員会 (2004年1月)
 - ・有明海北部海域のタイラギ資源の減少とアゲマキの大量死, 伊藤史郎
4. 有明海・八代海総合調査評価委員会 (2004年5月)
 - ・タイラギ浮遊幼生の飼育と着底, 後藤政則
5. 第12回海苔養殖技術検討会 (2004年5月, 山口)
 - ・有明海の病害対策について, 川村嘉応
6. 有明海底質改善に関するシンポジウム
地域コンソーシアム「有明海」
研究グループ中間報告 (2004年9月, 佐賀大学)
 - ・底棲生物の棲息調査並びに囲繞提工に適応する底棲生物種の解明
大隈 斉 ーアゲマキ漁場復活事業ー
川原逸朗 ータイラギ漁場復活事業ー